オウゴン

生薬の性状の項を次のように改める.

生薬の性状　本品は円錐状，円柱状，半管状又は平板状で，長さ5～20 cm，径0.5～3 cmである．外面は黄褐色を呈し，粗雑で著明な縦じわを認め，ところどころに側根の跡及び褐色の周皮の破片を残す．上端には茎の跡又は茎の残基を付ける．ときに木部の中心部は腐朽し，またしばしばうつろとなる．質は堅いが折りやすい．折面は繊維性で黄色である．

本品はほとんどにおいがなく，味はわずかに苦い．

本品の横切片を鏡検〈*5.01*〉するとき，残存したコルク層は6～20層で，皮部は柔組織からなり厚壁細胞が散在する．木部は柔組織からなり，道管及び少量の木部繊維が認められる．道管は通常群をなし，接線方向，放射方向又は不定形に配列する．木部の中心部が腐朽するものでは，空洞化した部分にコルク層が発達する．皮部及び木部の柔細胞中には，単粒及び複粒のでんぷん粒が含まれる．

定量法の項を次のように改める.

定量法　本品の粉末約0.5 gを精密に量り，薄めたメタノール(7→10)30 mLを加え，還流冷却器を付けて水浴上で30分間加熱する．冷後，共栓遠心沈殿管に移し，遠心分離し，上澄液を分取する．還流抽出の容器は，薄めたメタノール(7→10)30 mLで洗い，洗液は先の共栓遠心沈殿管に入れ，5分間振り混ぜ，遠心分離し，上澄液を分取する．残留物は更に薄めたメタノール(7→10)30 mLを加え，5分間振り混ぜ，遠心分離し，上澄液を分取する．全抽出液を合わせ，薄めたメタノール(7→10)を加えて正確に100 mLとする．この液2 mLを正確に量り，薄めたメタノール(7→10)を加えて正確に20 mLとし，試料溶液とする．別にバイカリン標準品(別途水分を測定しておく)約10 mgを精密に量り，メタノールに溶かして正確に100 mLとする．この液5 mLをとり，薄めたメタノール(7→10)を加えて正確に10 mLとし，標準溶液とする．試料溶液及び標準溶液10 µLずつを正確にとり，次の条件で液体クロマトグラフィー〈*2.01*〉により試験を行い，それぞれの液のバイカリンのピーク面積A_T及びA_Sを測定する．

バイカリン($C_{21}H_{18}O_{11}$)の量(mg)＝$M_S \times A_T / A_S \times 5$

M_S：脱水物に換算したバイカリン標準品の秤取量(mg)

試験条件

検出器：紫外吸光光度計(測定波長：277 nm)

カラム：内径4.6 mm，長さ15 cmのステンレス管に5 µmの液体クロマトグラフィー用オクタデシルシリル化シリカゲルを充塡する．

カラム温度：50℃付近の一定温度

移動相：薄めたリン酸(1→146)／アセトニトリル混液(18：7)

流量：バイカリンの保持時間が約6分になるように調整する．

システム適合性

システムの性能：バイカリン標準品1 mg及びパラオキシ安息香酸メチル2 mgをメタノールに溶かして100 mLとする．この液10 µLにつき，上記の条件で操作するとき，バイカリン，パラオキシ安息香酸メチルの順に溶出し，その分離度は3以上である．

システムの再現性：標準溶液10 µLにつき，上記の条件で試験を6回繰り返すとき，バイカリンのピーク面積の相対標準偏差は1.5%以下である．